

1. 調査目的

この調査は、区民が区政に対してどのような意見・要望を持っているかを把握し、今後の区政を進めていくうえでの基礎資料とするものである。

2. 調査項目

- (1) 定住性
- (2) 区政
- (3) 職員対応
- (4) 区政の取り組み
- (5) 区の基本計画・実施計画
- (6) 広報
- (7) 消費生活
- (8) 区内の農業
- (9) 子育て
- (10) 道路の整備
- (11) せたがやの魅力

3. 調査設計

- (1) 調査対象 世田谷区在住の満20歳以上の男女個人
- (2) 対象数 2,000人
- (3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (4) 調査方法 郵送配布・訪問回収
- (5) 調査期間 平成20年5月31日～6月15日
- (6) 調査実施機関 社団法人 新情報センター

4. 回収結果

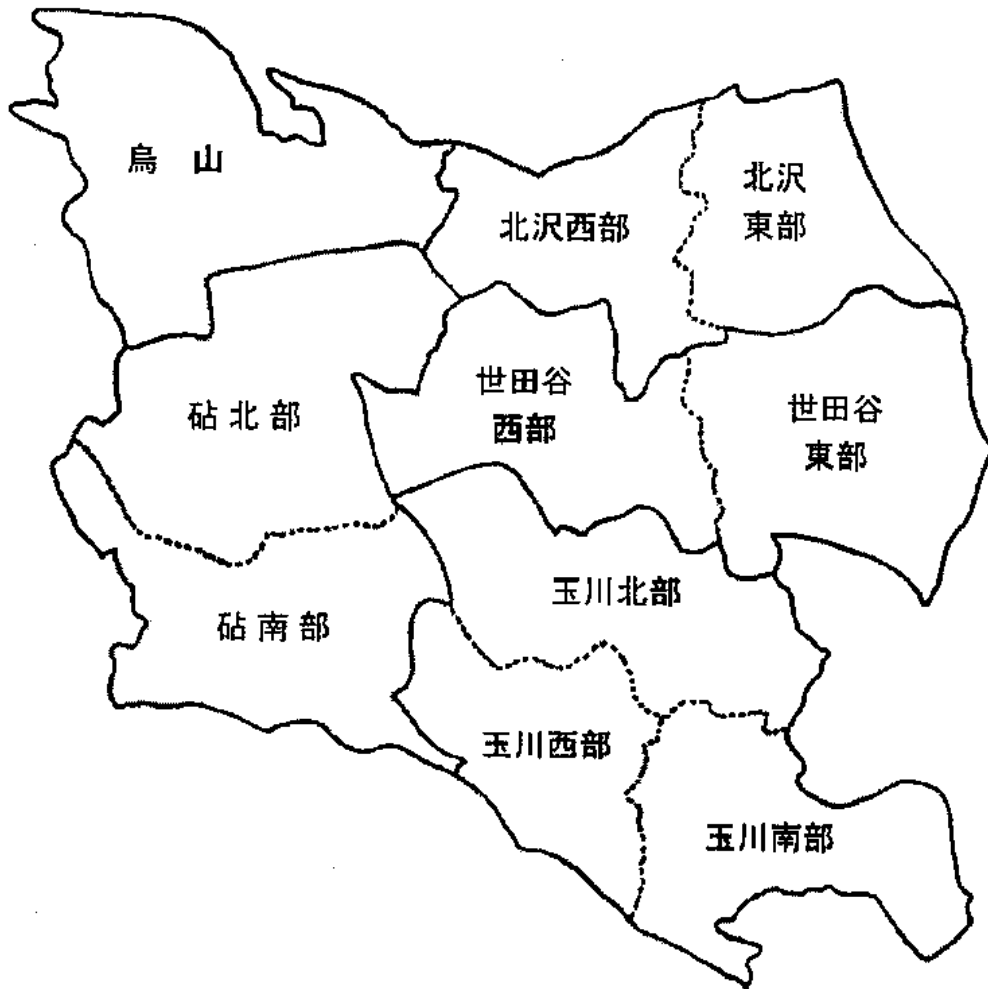
対象者	有効回収数	不能数	回収状況					
			転居	長期不在	一時不在	住所不明	拒否	その他
2,000 (100.00%)	1,365 (68.3%)	635 (31.7%)	55 (2.8%)	31 (1.5%)	336 (16.8%)	11 (0.5%)	155 (7.8%)	47 (2.3%)

5. 標本設計

- (1) 母集団 世田谷区在住の満20歳以上の男女個人
- (2) 対象数 2,000人
- (3) 調査地点数 200地点
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

【層化】

世田谷区内を町丁目単位として、次の10地域に分類しそれぞれを層として計10層とした。



地 域 町 丁 名 一 覧 表

地域	町丁目
世田谷東部	池尻 1～4丁目
	下馬 1～6丁目
	三宿 1～2丁目
	太子堂 1～5丁目
	三軒茶屋 1～2丁目
	野沢 1～4丁目
	若林 1～5丁目
	上馬 1～5丁目
	駒沢 1～2丁目
世田谷西部	世田谷 1～4丁目
	弦巻 1～5丁目
	宮坂 1～3丁目
	桜 1～3丁目
	経堂 1～5丁目
	桜丘 1～5丁目
北沢東部	北沢 1～5丁目
	代沢 1～5丁目
	大原 1～2丁目
	羽根木 1～2丁目
	代田 1～6丁目
北沢西部	松原 1～6丁目
	梅丘 1～3丁目
	豪徳寺 1～2丁目
	赤堤 1～5丁目
	桜上水 1～5丁目
玉川北部	駒沢公園
	駒沢 3～5丁目
	新町 1～3丁目
	深沢 1～8丁目
	桜新町 1～2丁目
	用賀 1～4丁目
	上用賀 1～6丁目
	玉川台 1～2丁目

地域	町丁目
玉川南部	奥沢 1～8丁目
	東玉川 1～2丁目
	玉川田園調布 1～2丁目
	等々力 1～8丁目
	尾山台 1～3丁目
	玉堤 1～2丁目
玉川西部	中町 1～5丁目
	野毛 1～3丁目
	瀬田 1～5丁目
	上野毛 1～4丁目
	玉川 1～4丁目
砧北部	船橋 1～7丁目
	千歳台 1～6丁目
	祖師谷 1～6丁目
	砧 1～8丁目
	成城 1～9丁目
砧南部	大蔵 1～6丁目
	砧公園
	岡本 1～3丁目
	鎌田 1～4丁目
	喜多見 1～9丁目
宇奈根 1～3丁目	
烏山	八幡山 1～3丁目
	南烏山 1～6丁目
	粕谷 1～4丁目
	北烏山 1～9丁目
	給田 1～5丁目
	上祖師谷 1～7丁目
上北沢 1～5丁目	

【標本数の配分】

各地域（層）における20歳以上の人口数（平成20年4月18日）により、2,000の標本数を配分した。

【抽出】

調査地点の抽出数については、1調査地点の標本数が10になるように、各地域（層）に当てられた標本数より算出し、決定した。

調査地点は、各地域（層）ごとに、

$$\frac{\text{地域（層）における人口数}}{\text{地域（層）で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔}$$

を算出し、等間隔抽出法によって、調査地点となる対象者抽出のための町丁目における起算番号を算出した。

対象者の抽出の名簿として、住民基本台帳を使用した。抽出された調査地点における対象者の抽出は、町丁目指定された起算番号目の人を第1番目の抽出対象とし、以下抽出間隔を35として指定の対象数10を系統的に抽出した。

以上の結果、各地域（層）別の標本数、調査地点数は次のとおりである。

地域		標本数	調査地点数	20歳以上の人口数 (母集団数)
世田谷	東部	330	33	117,865
	西部	230	23	79,769
北沢	東部	180	18	61,241
	西部	190	19	64,138
玉川	北部	180	18	66,267
	南部	180	18	61,215
	西部	120	12	43,488
砧	北部	230	23	83,434
	南部	100	10	37,046
烏山		260	26	91,409
計		2,000	200	705,872

(人口数は平成20年4月18日現在)

6. この報告書のみかた

- (1) 百分比は回答者数(該当設問においては該当者数)を100%として算出し、本文および図表の数字はすべて小数点第2位を四捨五入してある。したがって、比率の合計が必ずしも100.0%にならない場合がある。同様にいくつかの選択肢の小計が、本文中の数値と合致しない場合がある。
- (2) 設問中、特に指示がない限り回答は1つである。
- (3) 複数回答の設問は、すべての比率が100.0%を超えることがある。
- (4) 数表を用いたクロス集計による分析では、分析項目ごとに回答数の多い順に並び換えたものを除いて、数表中、全体の結果の比率から5.0%以上大きい選択肢の数値を網かけして表した。

7. 標本誤差

下記は二段抽出の標本誤差算出の数式である。

$$\text{(標本誤差)} \quad b = 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \quad \left(\begin{array}{l} N = \text{母集団 (世田谷区全体)} \\ n = \text{比率算出の基礎 (サンプル数)} \\ p = \text{回答比率} \end{array} \right)$$

Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ とみなすことができるので、調査結果の標本誤差の範囲は、以下の標本誤差早見表のとおり求められる。

標本誤差早見表

基数 (n)		回答の比率 (P)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
総数		(1,365)		± 2.3%	± 3.1%	± 3.5%	± 3.8%	± 3.8%
地域	世田谷	東部	(196)	± 6.1%	± 8.1%	± 9.3%	± 9.9%	± 10.1%
		西部	(187)	± 6.2%	± 8.3%	± 9.5%	± 10.1%	± 10.3%
	北沢	東部	(98)	± 8.6%	± 11.4%	± 13.1%	± 14.0%	± 14.3%
		西部	(128)	± 7.5%	± 10.0%	± 11.5%	± 12.2%	± 12.5%
	玉川	北部	(121)	± 7.7%	± 10.3%	± 11.8%	± 12.6%	± 12.9%
		南部	(131)	± 7.4%	± 9.9%	± 11.3%	± 12.1%	± 12.4%
		西部	(88)	± 9.0%	± 12.1%	± 13.8%	± 14.8%	± 15.1%
	砧	北部	(167)	± 6.6%	± 8.8%	± 10.0%	± 10.7%	± 10.9%
		南部	(73)	± 9.9%	± 13.2%	± 15.2%	± 16.2%	± 16.6%
	烏山		(176)		± 6.4%	± 8.5%	± 9.8%	± 10.4%
性別	男性		(600)	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
	女性		(765)	± 3.1%	± 4.1%	± 4.7%	± 5.0%	± 5.1%
年代	20～29歳		(167)	± 6.6%	± 8.8%	± 10.0%	± 10.7%	± 10.9%
	30～39歳		(247)	± 5.4%	± 7.2%	± 8.2%	± 8.8%	± 9.0%
	40～49歳		(267)	± 5.2%	± 6.9%	± 7.9%	± 8.5%	± 8.7%
	50～59歳		(195)	± 6.1%	± 8.1%	± 9.3%	± 9.9%	± 10.1%
	60～69歳		(221)	± 5.7%	± 7.6%	± 8.7%	± 9.3%	± 9.5%
	70歳以上		(268)	± 5.2%	± 6.9%	± 7.9%	± 8.5%	± 8.6%

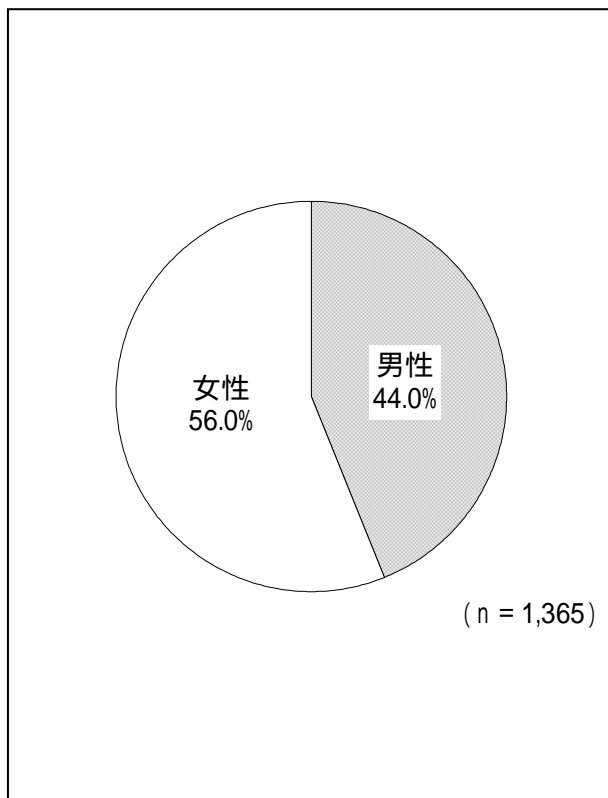
基数 (n)		回答の比率 (P)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
n=1,500の場合		(1,500)		± 2.2%	± 2.9%	± 3.3%	± 3.6%	± 3.7%
n=1,400の場合		(1,400)		± 2.3%	± 3.0%	± 3.5%	± 3.7%	± 3.8%
n=1,200の場合		(1,200)		± 2.4%	± 3.3%	± 3.7%	± 4.0%	± 4.1%
n=1,000の場合		(1,000)		± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
n=800の場合		(800)		± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
n=600の場合		(600)		± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
n=400の場合		(400)		± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
n=200の場合		(200)		± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%
n=100の場合		(100)		± 8.5%	± 11.3%	± 13.0%	± 13.9%	± 14.1%

(注) この表の見方は次のとおりである。

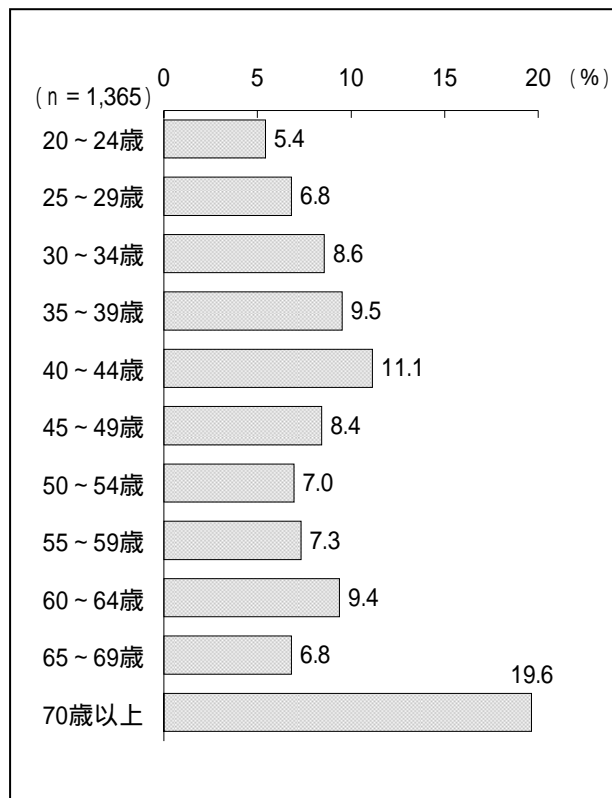
「ある設問の回答数が1,365人であり、その設問の選択肢の回答比率が40.0%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高で±3.8%である。」

8. 標本構成

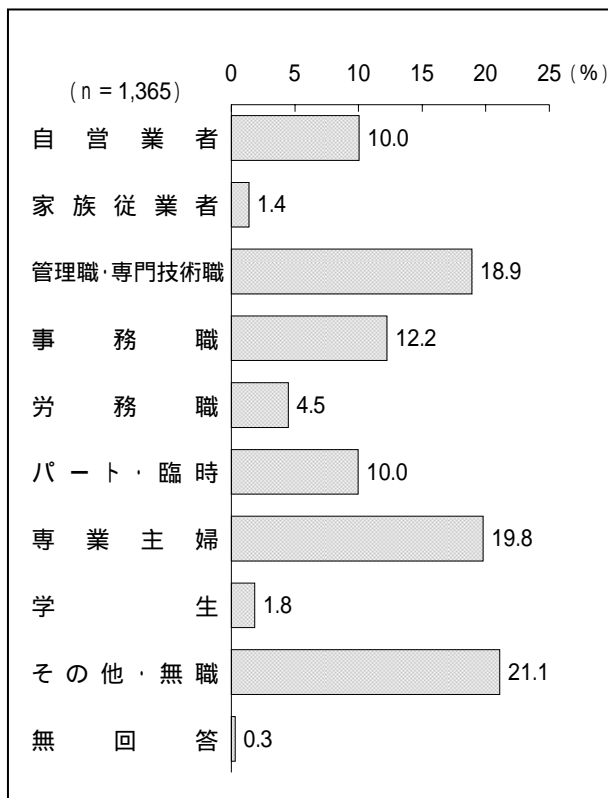
(1) 性別



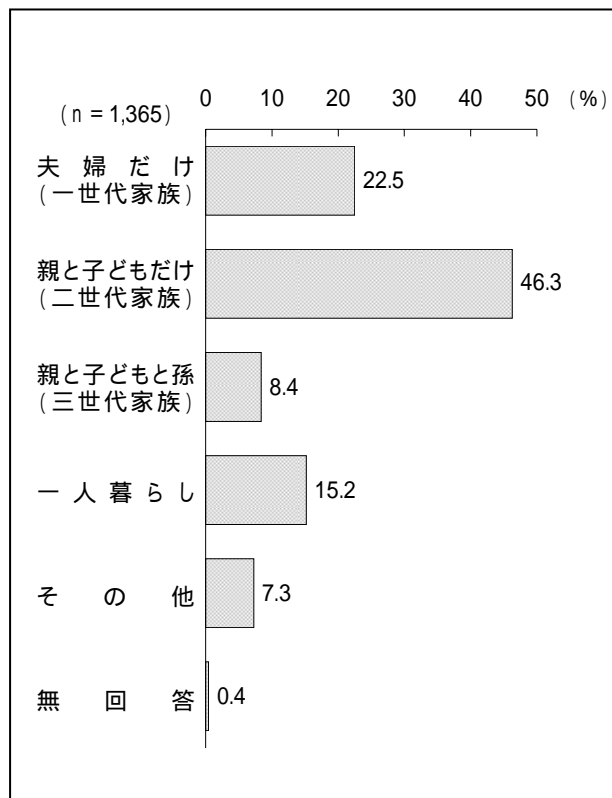
(2) 年齢



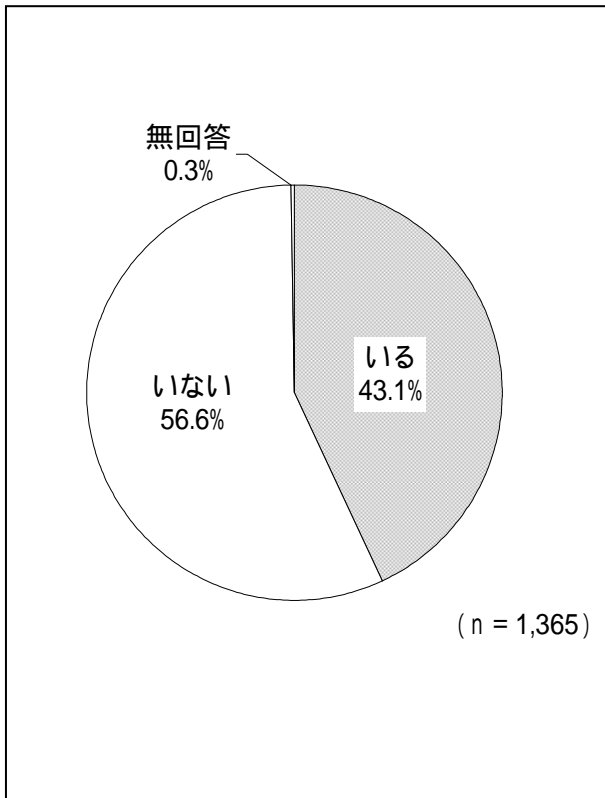
(3) 職業



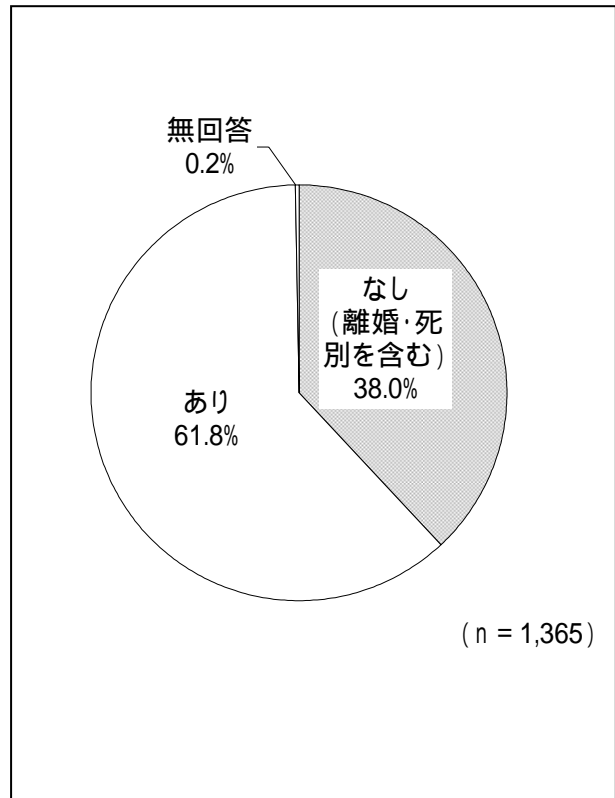
(4) 家族構成



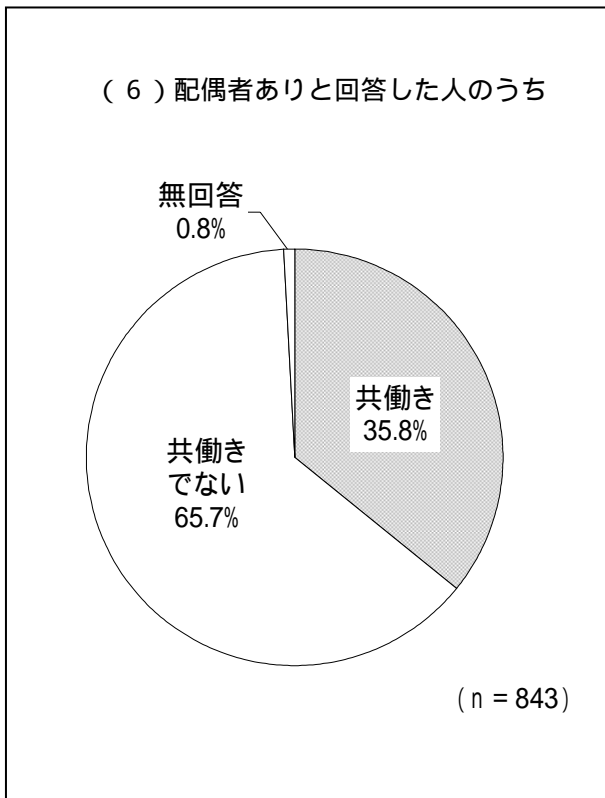
(5) 同居家族における高齢者の有無



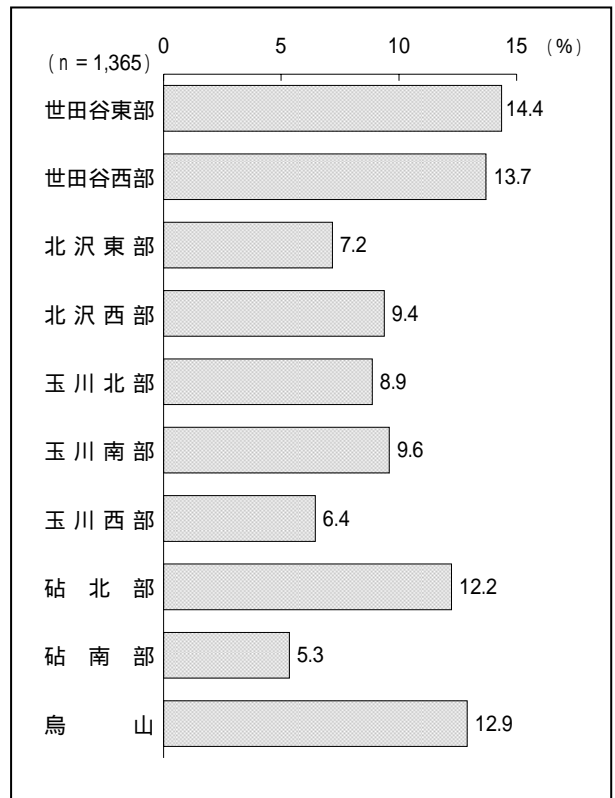
(6) 配偶者の有無



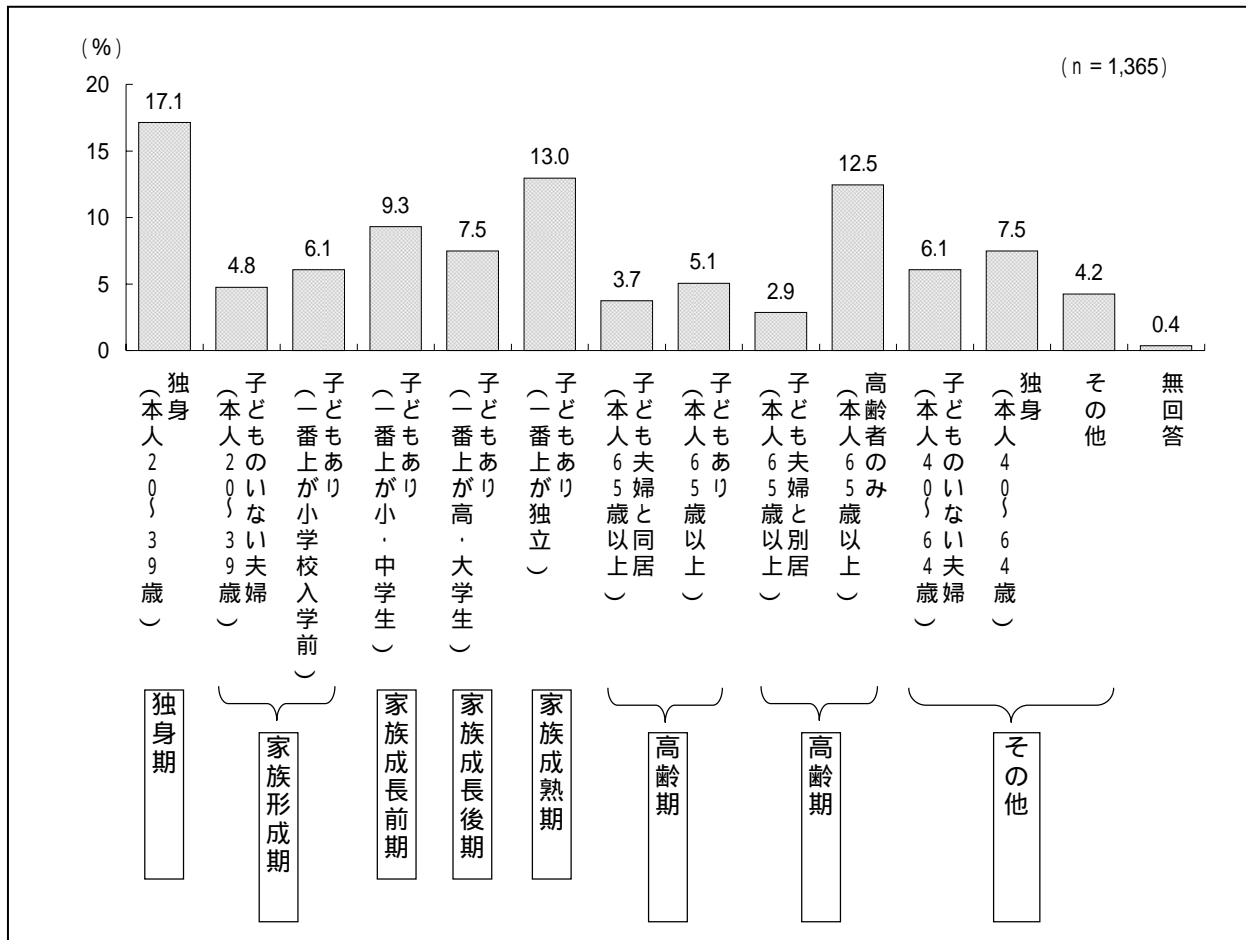
(7) 共働きの有無



(8) 居住地区



(9) ライフステージ



【高齢期】本人 65 歳以上で子ども夫婦と同居、または子どもありの世帯

【高齢期】本人 65 歳以上で子ども夫婦と別居、または高齢者のみ(子どものいない夫婦等)の世帯

(10) 住居形態

